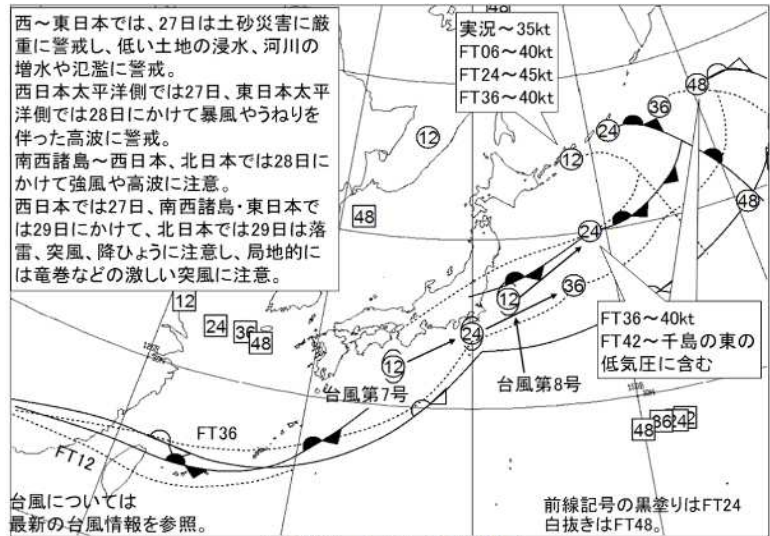


1. 実況上の着目点

- ① 千島近海にある低気圧から前線が東日本から西日本へのびており、西～東日本では局地的に激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5640～5700m付近のトラフに対応した低気圧が北日本にあって低気圧周辺では雷を検知し、激しい雨を解析。
- ③ 台風第7号が奄美地方を北東進。また、台風第8号が日本の南を北上しており、衛星赤外面像では台風を取り巻く発達した対流雲がみられ、台風周辺では雷を検知。
- ④ アムール川下流には500hPa 5580m付近に-18℃以下の寒気を伴ったトラフがあって南下している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、27日には1項②の低気圧と一体化し28日にかけて千島の東へ進む。この低気圧からの前線が27日は東日本まで残るが、1項③の台風の北上に伴い、西日本では前線による直接の影響は次第に小さくなる見込み。
- ② 1項③の台風第7号は、27日は西～東日本太平洋側にかなり接近しながら東北東進し、28日朝以降日本の東で温帯低気圧に変わる。また、1項③の台風第8号は、東日本の太平洋側にかなり接近した後、27日朝以降、日本の東で温帯低気圧に変わる。これらの台風の接近に伴い、27日は西～東日本太平洋側を中心に下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降る所がある。台風が接近する前から1項①の前線の影響により、特に西日本では大雨となっており、土砂災害の危険度が高くなっている所がある。また、26日夜遅くに発生した山梨県東部を震源とする地震の影響もあることから、西～東日本では27日は土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。特に、東日本太平洋側では27日は対流雲が組織化しやすくなることに留意。また、台風本体の接近通過、台風を波源とするうねりの到達により西日本太平洋側では27日、東日本の太平洋側では28日にかけて暴風やうねりを伴った高波に警戒。台風から温帯低気圧に変わった後もうねりを伴った高波が持続することに留意。
- ③ 1項④のトラフは、28日にかけて北日本を通過し-12℃以下の寒気を伴いながら通過。その後29日にかけても後続のトラフが-15℃以下の寒気を伴いながら北日本を通過。東日本でも29日は-9℃以下の寒気に覆われる見込み。北～東日本では日中の気温上昇の影響も加わるため、大気の状態が不安定となる所がある。北～東日本では29日にかけて落雷や突風、降ひょうに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：東海 250、関東・伊豆諸島 200、近畿 150、沖縄 120 mm。
- ② 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島 6、東海・四国 5、近畿、奄美、沖縄 4、九州北部・九州南部・東北 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無

全般気象解説情報(台風第7号)を5時頃に発表予定。